

2K-5100

95
-
25

数理解析研究所講究録 435

遷移過程と乱流の理論

禁帯出期間

56.9.2—9.9

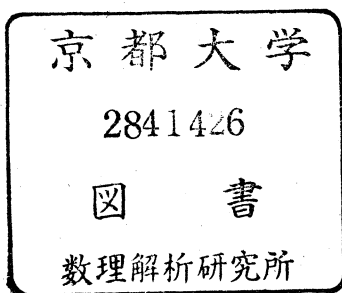
数研図書室

京都大学数理解析研究所

1981年8月

RIMS *Kokyuroku* 435

Theory of Transition Process and Turbulence



August, 1981

Research Institute for Mathematical Sciences

Kyoto University, Kyoto, Japan

遷移過程と乱流の理論

研究集会報告集

1981年 1月19日 - 1月21日

研究代表者 後藤金英

目次

1. 乱流の相似性と普遍性 1
京大 理 巽友正
2. 臨界点付近における非線形散逸性ドリフト波 6
名大 理 谷内俊弥
3. 振動翼からの剥離渦 19
お茶の水大 理 大島裕子
東大 宇宙研 夏目明子
4. 音の場と流れの場の相互作用 34
九大 工 神部 勉
5. 発達した乱流の異常拡散 51
九大 理 森 肇
6. レイノルズ応カクロージャー・モデルの
統計理論的構成 52
東大 生研 吉澤 徹

7.	乱流における散逸構造	55
	名大 工 桑原真二	
8.	Padé近似を用いた乱流理論の試み	72
	電機大 理工 福湯章夫	
9.	Boussinesq 乱流 — 軸対称乱れ —	84
	東邦大 医 中内紀彦 斎藤善雄	
10.	乱流モデルの問題点	98
	電通大 流体工学 大路通雄 鍋嶋秀喜	
11.	秩序 — 乱雑遷移の素過程	115
	東大 宇宙研 佐藤 浩	
12.	Two-Equation Model による 3次元乱流数値解析と モデル実験	134
	東大 工 加藤信介 東大 生研 村上周三	
13.	Taylor 渦流のモデル方程式	145
	広島大 理 八幡英雄	
14.	回転流体中での複数の平衡解とそれらの 安定性について	158
	京大 理 余田成男	

15. 収束する Jeffery-Hamel 流の線形安定性について182

原研

藤村 薫

16. 流体现象における対称性の低下と解の分岐199

東京学芸大

松田佳久

17. 乱流斑点の二重構造208

名城大 理工

松井辰彌